

大川 嶺子

沖縄県立看護大学 講師

住民による高齢者地域ケアシステム構築過程に見る地域文化的認識・行動に関する研究

【目的】住民による地域ケアシステム構築を支援する過程で、研究者が感じた「違和感」を手がかりに、住民の認識および行動に対する地域文化の影響を検討すること。

【方法】

1. 対象：第1段階－A島住民グループ（以下WG）会議の逐語録。第2段階－WGメンバーへのインタビュー記録。
2. プロセスおよび方法：第1段階－①研究者が「違和感」を覚えたWGメンバーの発言を抽出し、②地域文化的認識・行動を仮定し、③地域文化的認識・行動に影響を与えている地域文化的背景を仮定した。第2段階－①研究者が「違和感」を覚えた発言と場面および「違和感」の内容を提示してその発言の意味を問い、仮定した地域文化的背景を提示して発言との関連性について尋ねた。②仮定した地域文化的認識・行動を、インタビュー内容から読み取った地域文化的認識・行動によって再整理した。③再整理された地域文化的認識・行動を、A島の歴史、地理との関連で検討し、地域文化的背景を導いた。

【結果及び考察】

仮定した地域文化的背景は、住民インタビューによって再整理された。「小規模・近接型離島であるA島と本島行政の関係」および『土地総有制』を基盤にした、住民総意による決定を行う総会の持つ生活への規制」は、住民の認識・行動に影響を与えている地域文化的背景である事が推察された。